大正九年八月一日發行　大正九年七月二十六日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十七巻　八月號

目次

第十七卷第八號

女子青年界目次

大正九年八月號

女子青年界

第十七卷

第八號

Strong Son of God, immortal Love,
Whom we, that have not seen thy face,
By faith, and faith alone, embrace,
Believing where we can not prove;

Thou seemest human and divine,
The highest, holiest, manhood thou:
Our wills are ours, we know not how;
Our wills are ours, to make them thine.

人類に對する信仰

別所梅之助

私は、かつて我が母のみを信じた。私の幼い日の信頼は、そこにのみかゝつてゐた。

たらちねの更に隣をかへけるも子をおもふゆゑと聞くぞかなしき　藤原忠房

私は、かつて我が國人のみを信じた。あらゆるよき事、美しき事は、國人なればこそと思へた。

いさぎよや大和心を心にてよそにはさかぬ花さくらかな　井上文雄

私は、かつて儒教のみを尊しとした。「子四を絶つ。意なく、必なく、固なく、我なし」とたゝへながら、他を異端とした。

私は、かつてクリスチャンのみをよしとした。そのよきも、尊さも、クリスチャンなればとした。

Christs et ecclesiae

私は、新生の形にのみ眼をみはつた。生るゝ力の常に存するを忘れてゐた。私の想のナザレのイエスのに遠かりしを恥づる。私は、イエスの如く、少くとも我が今おもふイエスの如く、萬物を抱きたい。

私は神より出でたる人類を信じたい。

イエスは人をさばかなかつた。私は、他を拒ける事の危さをおもふ。わが眼をあぐれば、神の子の姿は、人類のそこにも、こゝにも見られる。

私は、せめぎあうた人の蹟にすら、やさしい心根を見る。

私は白日の夢を見て居るのかしら。

いな、「天地の道」といふことばすら、かつては一民族の間にのみ行はれるやに感ぜられてゐた。されど人は、それを突破した。

性の本能は暴びてゐた。人は、そこから戀愛を創造した。

人は、惑うた。そして惑の末に、宗教を生み出した。生まるべきものが生れいでたのである。私はかゝる奇蹟に驚嘆する。私は、人に存するおのづからなる誠を尊ばう。

詛ひよ、惱みよ、私から去れ。私は今、祈らうとしてゐる。

"Man must pass
from old to new,
From vain to real,
From mistake
to fact,
From what once
seemed Good,
To what now
proves best."

Browning.

基督教は理論にあらずして事實なり、實驗なり。理論のみを以て基督教を悟らんとするは、理論のみを以て化學を研究せんとするが如し。理論のみを以てしては、吾人は到底基督教の何者たるかを了解し能はざるなり。博士ハックスレー曰へるあり「哲理の聖殿に於て拜せんとする者は、先づ實驗室の前殿を通過せざるべからず」と。余輩も亦言はんと欲す「基督教の聖殿(Holy of Holies)に於て靈なる神に接せんと欲するものは、先づ心情の實驗室を通過せざるべからず」と。歷史家ネアンデルの所謂「神學の中心は心情なり」との意も、蓋しこゝに基するならむ。宗教は確信なり、而して確信は直感なり。

——内村全集より——

信仰の戰

車田秋次

聖書に私共の信仰の生涯が、幾度か戰爭に譬へられて居る事は、皆樣の既に御氣付の事であらふと信じますが、之には實に深い意味があつて、お互基督者の生涯の如何に眞劍なものであらねばならぬかを最もよく表して居るシムボルであらふと思ひます。と申す譯は恰も戰爭なるものが、先づ自ら進んで敵を倒すに非ざれば、敵が我を倒さずには置かぬ二つ一つの物である如く、信仰生活も亦吾々が積極的に敵を制しつゝあるに非ざれば、敵が吾々の上に勝を得つゝあるものなる事は、否定すべからざる事實であるからであります。

そこで吾々は如何にせば此信仰の戰に於て勝を制する事が出來るか。弗六章十節より十八節迄は此事に付て、吾々に三つの大切なる事を數へて居ます。

此外なほ云はん、我兄弟よ、主及び其大なる力に由て強くなるべし。爾曹惡魔の奸計を防がん爲に神の武具を以て裝ふべし、我等は血肉と戰ふに非ず政又權威また此世の暗を司どる者又天の所にある惡の靈と戰ふ也。之故に神の武具を取るべし、之あしき日に遇ひて敵を防ぎ、凡ての事を成就して立ん爲也。爾曹立つに誠を帶として腰に結び、義を胸當として胸にあて、和平なる福音の備を靴として足にはき、此外信仰の盾を取るべし。此盾をもて惡き者の火箭を委く消す事を得ん。又救の冑及聖靈の劍卽ち神の道を取り、恒に各樣の祈と願を以て靈に由て求め且つ凡の聖徒の爲にも愼みて此事をなし祈りて倦まざるべし。

卽ち第一に神の力(第十節)第二、惡魔の力、第三、

精神的武裝といふ事に外なりませんが、說明の便宜上先づ、第二の惡魔の力の事からお話して行くことに致しませう。

苟も戰爭とあるからには專門家に尋ねる迄もありません。敵に付ける智識なくして勝戰が戰へる道理のない事は解り切つた話ではありませんか。そこで聖書には此惡魔についていろ／＼と敎へて居る所がありますが、私は唯五つだけを擧げて皆樣の御參考に供し度いと思ひます。

其第一は路八章十二でありまして「途の旁に落しは聽きし後惡魔の爲に其心より道を奪はるゝ者也。彼は人の信じて救はれん事を恐る」と御座います。惡魔の奸計の最も顯著なる物の一として、此事を記憶いたし度いものであります。聖書の他の所に「彼は信じ從はざる者」の心の中には自由に働くことが出來ると書いてあります(弗二〇二)

第二は所謂誘惑でありまして、太四章一以下に見る事が出來ます。之は惡魔が光の使の貌に變裝して我々に對してさも親切であり愛があるかの如くに裝ひ、罪に樣々の扮飾を施して人の靈魂を狩るのであります。

第三に彼はよく人と人との間に不和の種を蒔いて相互の間を裂く働を致します。(哥後二ノ十、十一)パウロは斯くと知つて、コリント敎會に於て此敵の乘ずる隙なからしめたと申して居ります。

第四は催眠術的威嚇とでも申しませうか、法外に自己又は他人の罪惡、弱點、惡癖などを誇張して、其が改善又は救濟を思ひ留まらしめやうとするのであります。皆樣は動物園で獅々の吼ゆるのを御注意なすつた事がありますか。園內の殆ど凡ての動物が皆不動の姿勢で戰慄の色を示すのを私は見て驚いた事があります。我等の敵なる惡魔がヤハリ屢々此手段を用ひて吾々を罪に陷れやうと致して居る事を注意しなければならぬと思ひます。(彼前五〇八)

最後に彼の働として新約書に現はれて居るのは、祈禱の妨害であつて、默十章十に其を見る事が出

來ます。私共の信仰生活に於て祈禱が如何に大なる力の源泉であるかを最よく知つて居る彼が、此所で吾々を妨害しやうとするのは尤もな事と申さねばなりますまい。以上掲げました五つの點の中で唯一つでも、若し吾々に乘ぜらるべき隙がありましたなれば彼は直に吾々の靈性を目がけて侵入し來り、全く之を蹂躙し去らなければ止まないのであります。

そこでパウロは吾々が如何にして此敵を防ぐ事が出來るか、十四節以下に於て神の完全なる武裝法を敎へて居るのであります。「之故に神の武具を取るべし」武具は全體で七つあり、委く神御自身の御手に成れるものであつて、守勢用のもの五つ、攻勢用のもの二つと二種類に分れて居ります。先づ守勢用のものから考へて見ると。

（一）誠を帶

として腰に結び」（第十四節）とありますが、腰は聖書に於ては力の所在となつて居りますから、其のない者は力のないものといふ事になります。早い話が日本婦人の結びつけて居る大きい帶を、此頃暑いからと云ふて、之を外し其代りに襷を用ひたとしたなれば如何でございませう。暑さは多少加減されるかも知れませんが、何所とはなしに力がのらず、身體の締りを失ひ、活動は反つて致し惡いと申します。帶を襷に代へてさへ斯くの如くとすれば、全然之を廢したとすれば果して如何でありませうか。

皆樣、貴方の祈禱が何所とはなしに力拔けがして實が入らず、言葉も兎角上滑りして人の心に觸れないやうな氣がすることはありませんか。それは心に誠即ち眞實といふ帶がシッカリと結ばれて居ない爲ではありますまいか。言葉と行爲とが一致を缺いたり、約束が言葉通り履行されなかつたり等するのは皆此帶の弛んで居る印と申さねばなりません。

（二）義を胸當

として胸に當」（第十四節）弓矢刃劍のみを以てせし昔時の戰爭に於て、恐らく胸の武裝程大切なものは他になかつたでありませう。而も之は單に消極的に我身

を守る爲に必要であつた許りでなく、數年前の日本騎兵服の肋骨の如く、堅固なる胸部の武裝は敵に對する大なる威嚇力となるのでありますから、之は非常に重きをなすものとせられて居りました。斯くの如く私共の生涯に於ても「義」は實に大なる戰鬪力であり、同時に大なる威嚇力たるを失ひません。人は私共の信仰個條や教理やに反對する事は出來ませうけれ共、言葉と行とに見らるゝ「義」をば如何ともする事は出來ないでありませう。

（三）和平なる福音の備を靴として足に穿き」（第十五節）腰と胸との武裝に次いで必要なるものは足でありますが、「和平」は最もよく其に該當する武器であります。毎日足袋を履いて疊の上にのみ生活して居る人々を裸足にして砂利の上を歩かせて御覧なさい。唯歩くだけでも痛がつて大騷ぎをするに相違ありません。此種の人々が、如何なる危險物の落ちて居るかも知れぬ戰場に踏み込んで、勇敢なる戰鬪を營まう等とは飛んでもない事と申さねばなりますまい。そこで必要なるものは堅固なる軍靴であります。「和平」は即ちそれに外なりません。良人と我との平和、人と我との平和、之なくして私共は戰爭に出られるものでありません。

「此外、

（四）信仰の盾

を取るべし、此盾を以て惡者の火箭を消す事を得ん」（第十六節）前に揭げた三つが悉く對人的であつたに對し之は謂はゞ對神的であります。即ち靈の戰爭は私共が、單に道德に於て完全であるといふだけでは不充分であつて、神に對する活ける信任がなくては勝利を期する事は出來ぬものである事を敎へて居ます。

（五）「救の冑」（第十七節）

之が守勢用武具の最後のものでありますが、思念想像等を安全ならしむる爲に、寸時も忽緖にすることの出來ぬものであります。お互は果して如何でせうか。思念想像等に於て敵に乘ぜられて居る事はあ

りませんか。然らば其冑とは精神的に何を指して居るかといふに、「救」又は「救の喜」であります。私共は信仰生活に入つて幾年經つものであるにもせよ、自ら心の中に「救はれて有難い」と云ふ感謝の念のなくなる時は、既に危險の萠したる時であつて救の冑の覺束なくなつて居る者と申さねばなりますまい。

以上五つは悉く守勢用の物のみでありましたが、武具は守勢用の物のみを以てしては、未完全ではありません。そこで第十七節は攻勢用武器の第一なる物として、

(六)「聖靈の劍即ち神の道」

を取るべく吾々に命じて居ります。惡魔との戰に於て此武器が如何許り威力を持つて居るものであるかは、キリスト御自身の荒野に於る誘惑の例に徴しても明でありませう。但、此神の道なるものは聖靈の劍と呼ばれ、聖靈御自身が吾々の中に在して、之を用ひ給ふ事によつてのみ、斯くの如き力を揮ふものである事を記憶いたしたう御座います。最後に第十八節は第二の攻勢用武器として、

(七) 倦まざる祈禱

を掲げて居りますが、パウロは此場合に於てのみは寓言を用ひず、ありの儘の事實を平易なる言葉を以て私共に說いて居ります。聖書に從へば、我等の信ずる神が全能にて在す限りは、信仰より出づる祈禱も亦全能ならざるを得ぬと敎へてあります(太十七ノ二十)實に驚くべき事ではありませんか。

惡魔の力に如何に恐るべきものがあるにせよ、吾々は神の御力に由り、斯くも完全に武裝せらるゝに於ては、攻守共に雄々しきを得て、我等の生涯は完全に敵の手を脫し「聖と義に於て懼なく主に事へ」得るに相違ないと思ひます。

我等は神の敎に逆ひて建たる所の諸の櫓と論をくづし諸の意思を擒にしてキリストに服はしむ。哥後十ノ五

譯詩

「我は小山に向ひて我眼を擧ぐ」

我はこの世の定めなき火と衰へ行く現し世の日より遠く離れて、
疾病の如き願望に蒼みてあり
されども我は夢の中にこの禍患多き世界を乗り超えて
日の光が永遠に眠る小山を見る
聖徒等はいふ、其所にて天の人達は白き榮の衣を纏へる我等を慰むと、
彼等は言ふ、我等は夜も晝も、なきエスの中に息ふと。

我魂はいふ、我はホームを尋ねたれど得ざりき
我は空費して何者をも得ざるものゝ爲に勞働きぬ
我が誇は上に上りて生長せんと勵めたれど
そは徒勞に終れり
我が戀は戀を求めき
されども視よ、その冠は得ざりきと、
聖徒等は言ふ、新たなる魂は我等を増殖し、誰も悲しまず、亦退かずと、
彼等は言ふ、我等は我等のエスを愛し、彼も我等を愛すと。

我は上に上る能はず、我は下に息ふ能はず、
我は愛を發見する能はず、亦死より逃るゝ能はず
愛すべき希望と歡喜は失せて我を冷笑す
我が最も愛する者は死し、我は彼等と絡に死す能はず、
聖徒は言ふ、我等が榮光の中に息ふ所には死も我等を滅ぼす事を得ずと、
彼等は言ふ、我等は一度我等のために死に給ひしエスの中に生くと。

おゝ我が魂よ、彼女は翼を打ちて天の日の中にある無限へ飛び行かんとして喘ぐ、
されど彼女は撓みて氣絶えなんとす、
我にもかゝる祝福ありやと。
來りて見よと聖徒はいゝふ
來りて見よとエスは言ひ給ふ、
聖徒等はいふ、彼の喜悦は神と羔の前に我等を喜ばす。
エスは又宣り給ふ、
來りて我が甘き蜜を味へよ、
我が居る所に我と緒にあれよと。

クリスティナ・ロゼティ

村岸榮子譯

信仰は力の中の力である。これは心霊界の王である。この力に優る力はない。その大なる勇氣に辟易しないものはない。信念を缺ける人は卑怯で胡桃穀の中に生活する小さい萎縮した者である。彼に信仰を與へむか。彼は大海原に潜る鰐となり、戰場で勇み嘶く軍馬となる。彼は世、國々を取つて掌の中に圓め萬軍と戰つても一撃で鏖滅せしめる巨人である。彼は王の凡ての王笏を束ねあげ、冠を集めて己が頭に置く。

諸君、信仰に優るものはない。信仰は天から得た力を以て諸君を神の如く全能のものにする。信仰を得んか、我等は如何なる事でも出來る。

――スポルジョン說教集より――

布哇にての見聞（第一信）

河井道子

五月十六日米國より白耳義への船中にて

紐育を五月八日出帆したこの船は、明十七日午前に英國サヲスハムトンに入港するので船客はソワソワしてゐます。氷山の碎片にでもぶつかると大變と心配した人もあるらしいが、曇天雨天の中をまづ無事な航海でした。

私は十八日白耳義のアントワープ港に上陸するのですから、明日は英國を唯眺めるだけで通り過ぎます。英土を踏むのは六月の二十日過ぎと思ひます。

アントワープやブラセルを一寸覗いて、巴里に行き十日間滯在しますと、其後はスキスの女子青年會幹事大會に出席する期日になります。同行には米國女子青年會外國部主任ミステーラーが居られます。此方は多くの米人指導者中、特に頭角を現して居られる方ですから、一緒に旅行して居ります間に多くの事を敎へられました。之だけでも遙々來た效があるやうに思はれます。

扨個人として端書や書面で御挨拶をした姉妹方は少しありましたが、「女子青年界」を通じて一般に何の通信も、今日迄じなかつた罪を幾重にも御詫び申上ます。横濱を出てから最早二ヶ月餘になるとは驚くの外ありません。其間に色々と見聞した事、旅行した所、回顧すると數ヶ月を經た樣であり、又一週間位でもある、此處は旅行せらるゝ方々の首肯さるゝ處でせう。

良心の責を免かるゝため、先づ太平洋の事から略記して、自分の朦朧となつた記憶を一洗しませう。

• • • •

横濱から布哇迄はなか〳〵海がよくあばれ、上甲板にさへ浪が遊びに來る事が屢々でした。其爲でもありますまいが、何をするのも物憂くて折角御見送り下されし友人達にさへ、一言の御禮狀も何も書かずに、十日間を私共二人(渡邊百合子と)は漫然過しました。私共と同室の佐分利令夫人と遠近の話をベッドに横はりながらした位が、一番の仕事でした。同夫人は故小村侯の御令嬢で、佐分利家に嫁がれて後に、戰時中の巴里に五ヶ年を過され、此度ワシントンに居らるゝ御良人の許に往かれるのです。至極平民的な美しい純潔な佳人です。御自身が宮中に出入して聖上の御側近く伺候された事など、少しも口外されず、我等平民の日常生活に興味を有ち、宗教に心を傾け、私共の勝手な物語を樂しまれたのは、今の上流婦人には珍らしい事と存じました。

三月十三日ホノルルに上陸すると、其暑い事、早く夏着に替へんと其のみに心かゝり、折角出迎に來て下されし岸本夫人(女子青年會移民係) 志田桑子姉其他に挨拶もろくにせず、倉皇と指定の旅館に投じました。久々にて西洋の旅館に入り、其廣々として居るのや、靜かなのに驚いて居る內、早や姉妹方の訪問を受けました。

其日直に前知事であつたフリヤ氏宅に食事に招かれ、夕は志田姉宅にて胡瓜の淺漬や鰻の御馳走にあづかり、ヘト〳〵に疲れて旅館に歸りました。

此フリヤ氏宅に先頃後藤男爵が、御宿泊ありしとか、其夫人は同地のY・W・C・Aの會長を數年つとめられた、非常に日本に好意を有つて居らるゝ御家です。

俄の暑氣の爲二三日は身體何となくダルク、元氣が出ぬに困りました。然し毎日買物から訪問等に出歩き、田舍者が都に出た時のやうに、自動車の往來繁きにビクつき、商店の立派なのに口を開き、日本婦人の下駄草履ばきに目を丸くし、自然界の美しさに一寸詩人を氣取り、等して過しました。其中に旅館生活を辭して、市の閑靜な所にあるY・W・C・

A別館に移轉しました。之は國際會館(International Institute)とて女子靑年會が布哇に入國する外國婦人に必要な學課を敎へる所です。此種の事業は紐育靑年會が永年實施して居り、太平洋沿岸にも、又合衆國の中央部にも同樣の事業が着々效果を奏して來たので、桑港にもホノルルにも擴張さるゝに至つたのです。尤もホノルルの女子靑年會本館は市の中心にあり、二十數人の幹事を置き、體育智育に貢獻する所少くありません。五年前一寸同地に立寄りし時の貧弱な姿は影だにもありませんで、實に目醒ましい活動振でした。

此別館は本館とは違ひ、移民や居留民の近寄り易い樣に、便利な而も靜な場所にあります。此處に廣島在住の宣敎師の令孃で日本語の上手な米幹事と、朝鮮人にして永年米國に留學せし婦人一人とが宿泊して、他の幹事即ちヒリピン人、支那人の幹事、及び監督の米幹事と働を共にして居られます。

此家の隣が曹洞宗の御寺で、朝夕は讀經の鐘をきゝ、夜は琴の音が大きな芭蕉の並樹を通してきこえ時には御寺樣の御住宅に芝居の稽古でもあるらしい聲色、三味線等のきこえる時もあります。

布哇滯留中私共は內外人の一方ならぬ厚意にあづかりました。三日間は海岸に壯麗な住宅を有つ米友人の許に起臥し、庭園から石段を下るとすぐに海水浴が出來ました。水瓜、バナナ、パイナプル、苺子は食べ放題といふ有樣で、珍らしい事のある每に渡邊姉と「日本の皆さんにお福分けしたい」と語り續けました。然し私共は御馳走のみで、時間を過したわけではありません。

布哇に於る同胞

學校は公私小學校、中學校、師範學校、特殊學校を參觀し、小學校で生徒の食する辨當を食し、女學校で生徒と食卓を共にし、大學の先生方と共にリセプションに出で、需に應じて講話も致しました。

布哇は昨年日本人の學校問題と云ふが起り、それにて日米人の感情が稍々妨害され、間もなく耕地に

ある日本勞働者の同盟罷工が起り、私共の滯在中はそれが中心問題で、勞資とも一歩も讓らず、英字新聞は日本人を罵倒し、邦字新聞は米人の貪慾を誇張し、從來信頼し來りし日米人すら相互に非難し合ふ狀態でした。私共の如き無智無經驗なる新來者にさへ、米人の牧師や敎師が意見を求められし事は、如何許り人心が動搖してゐたかを顯してゐます。

之が爲耕地に自動車にて伴はれし事二回にて、日本の傳道師にも逢ひ、耕主にも會見し、ストライカーとも語り等し、盲人の垣のぞきを經驗しました。勞資兩方に云ふ分があり、缺點もあり、無理ならぬ點も澤山ありました。一夕資本家側に立つ一人の日本牧師が訪問されし時、丁度ストライカーの張本人も亦私と會見中でしたので、實に私は困惑いたしました。とにかく、信者の中にもつと、今日の實際問題即ち勞働問題の如きを提げて、正しき指導者の位置を占むる人物が出ねばならぬ、又福音宣傳に衷心を注がねば到底日本人問題等、米地にて解決は出來ぬものと、今更ながら悟らされました。

何といふても、布哇同胞の親ともいふべき奥村牧師は一番徹底した意見を有つて居られます。何も役に立たぬ私共でもかゝる悲しき時期に接し、又同胞の發展と沈滯との二方面を見、殊に日本婦人界の缺陷を指摘され、利害、打算、毀譽褒貶のみに我等の生活が支配さるゝ間は、進歩の改造のといふ事は到底望み得べくもない事と、海外にある同胞の短所を見るにつけ反省すると共に、我國民に新生命を與へ給へと祈らずには居られませんでした。我同志の姉妹中海外渡航を期待せらるゝ方、同胞の爲奉仕せんと志せる方々も多い事と思ひます。どうか充分日本にて敎養して、天に財をつむ積りで御出かけなさい金儲のつもりなら御止めなさい、事業の爲なら日本を出るに及びません。眞に獻身以て神と人とに奉仕し而も其報酬が十字架でよいならば是非お出かけなさい。序に記します。布哇に於る最近の小學校兒童數は左の通りです。如何に日本兒童が多數であるか

お分りになりませう。

日本人	公立	10.295	私立	1.251
支那人	〃	3.465	〃	1.026
[illegible]	〃	3.177	〃	[illegible]

眞理と迷信との區別はそが果して理窟や常識に欲るかどうかと云ふことではない。

支那人	〃	3.465	〃	1.026
布哇人	〃	3.177	〃	623
米國人	〃	894	〃	1.057
ヒリピン人	〃	834	〃	67
布哇混血人	〃	3.940	〃	1.421

布哇人と支那人との混血兒が成績は一番よいそうです。成人してからも一番良い位置を占めると申ます。

餘り布哇のことが長くなり過ぎて、米國本土の事に至らぬ内、船は英國につくかもしれません。

常識に依るかどうかと云ふことではない。本性が應諾し至情が滿足するか否かと云ふことである。理窟はどうでも云へる、常識など無論あてにはならぬ。たゞ併しながら欺き難きは人の本性だ衷情の叫びだ。之れ丈けは枉げる事も打消す事も出來ぬ。此切なる要求に答へ、其渇望を滿すものこそ眞理である。

眞理と理窟とは違ふ。不完全極まる人間の理窟で說明が出來ぬと云つて、そが直ちに非眞理だといふ程輕卒なことはない。

——「余は如何にして確信を得しや」より——

アッシジの蠟燭

（聖フランシスと聖クララの五）

小出正吾

三つの花

五年程昔のことです。伊豆山権現の奥山を歩いて行きますと森の中でひよつくり出會つたのが一人の山賤女です。はつと思つて見た時に彼女の面ざしの崇高さが何かしら憶えのある人物の様に思はれたのでした。行き過ぎる時に私は少女の背に負つた草籠の中に一輪の白百合が搖れながら山氣に香つてゐるのを見逃がすわけにはゆきませんでした。

ああ聖クララだつた………と私は殘された白百合の匂ひに恍つとりとしながら考へたことでした。其はあのマルチニの作だと云ふクララの壁畫の姿が子供の頭に遺つて居て山の少女の純潔な美にブツかつた時不意に閃めいた印象であります。でも今でも私は聖クララ………と思ふと何とはなしに白百合のうつとりと咲いた姿を考へて了ひます。（フエレンツエの聖十字寺にある壁畫のクララは右手に白百合を持つて居ます。アシジ寺の壁畫のクララは何も持つて居ません。けれども私はこの方が好きです。クララ自身が此處には白百合の様に輝いて居ます）

けれども私達は忘れてはなりません。クララの生涯は純潔であつたと云ふ許りでは足りません。彼女は小さな野の菫を愛しました。菫の心は謙遜です。更に貴い一つのものは彼女の心の紅ひの花、愛を意味する薔薇であります。

パウル・サバチエの描寫に從へば、——眞に熱烈な眞に純潔な女性の間に屢々現はれる直覺の一によつてクララはフランシスの心の奧底の底の底迄下つて行つた。そして彼自身の裡に燃えて居たその同じ

くも美はしい心靈の、神と人とに獻げらるゝ愛の花——紅ひの薔薇の薫りでありませう。（薔薇と云へば聖フランシスが刺を除つて置いたと云ふ刺なしの薔薇は今も彼處を訪れるものゝ爲めに咲いてゐるさうです）

貧しいダミアノ尼院の二つの壁の間に、愛らしいウンブリアの平野を眺められる小さな空地がありました。其處へ土を盛つて造られたのが些かなクララ達の花園でありました。

そして古い傳說によりますならば、クララは唯三種の花をこゝに植えるのを許したと言はれます。其は純潔を意味する百合の花と、謙くだりを意味する菫の花と、そして神と人とに對する愛を意味する薔薇の花とでありました。

ウンブリアの野に黄昏が來て、クララは花に水を灌ぐ爲めに、この花園へ行きます時、彼女は平リー

雲雀の生活

そのポルチウンクラに住める者は聖フランシスと彼を取圍む兄弟達でありました。彼等はフランシスが「わが妹なる雲雀は我らと同じ頭巾を有ち、またよく謙くだれる鳥なり」と言つたあの雲雀の樣に一色の貧しい衣を着て神の讃歌を人々の胸に歌ひ込みつゝ巡歷をした托鉢の兄弟達でありました。

「貧困の貴女」即ち無所有の生活こそは彼等の地上の妻であつたのであります。フランシスの回心の燈臺であつた聖句、（馬太十〇七―十三）「爾等價なしに受けたればまた價なしに施すべし。爾ら金または銀または錢を貯へ帶ぶる勿れ、行嚢また二つの裏衣履杖もまた然り、そは工人のその食物を得るは宜なり」云々の文字通りの實行でありました。

兄弟達はウンブリアの秋の畠に麥や葡萄や橄欖の

収獲時、農夫に交つて歌ひつゝ手傳ひをして居たり又癩病院で看護夫になつて居たり、又水運びをやつて居たり、樣々の無賃勞働を悦んでやつて居る有樣が書き傳へられてゐるのであります。ですから彼等は人の戶口に立つてお符施を戴きました。お金や其時の必要より以上のパンなどは貰ひません。お腹の必要とするだけを與へられて感謝して受けたのであります。「小さい花」を讀むといろ〱の例があります。例へば聖フランシスと愛する兄弟マッセオが傳道しつゝ或村へ來た時に、餘りお腹が空きましたので掟に從つて神の愛の爲めにパンの施しを願つて步きました。「しかるに聖フランシスは姿あまりに賤しく身のたけ矮き人なりしかば彼を知らざる人は其が爲めに彼をいやしき乞食なりと思ひぬ。されば彼はたゞ幾片の缺けたる乾けるパンを得たるのみなりきされどフラテ・マッセオは丈たかく、からだ美しかりしゆゑ人々は、はなはだよきパンの大いなるを新しき塊より切りて分ちあたへぬ。」其處で二人は郊外の美しい泉の傍の石の上へパンをのせて神の備へ給ふ美しき食卓、甘美なる飲物、高き青空の爲めに心より感謝を以て舌鼓を打つのであつたと言ふ樣な工合であります。

何たる單純なる心でありませう。この歡喜を以て一切を人に捧げ、又人に施されるのを頓と恥ぢとは思ひませんでした。よくフランシスの行乞生活をば非活動的な乞食根性の樣に考へる人がありますが此はいけない見方です。乞食は働かずに貰つて生き樣とします。フランシスのは自分のものは人樣のもの自分の勞働は人の爲めの汗、其が心の自然から溢れ出て居るのでお腹が減れば神樣は備へ給ふと思つて愛する人々の戶口へ行くのです。働く人はお腹がへります。お腹がへつたフランシスを神樣は餓死させは致しませんでした。斯ふ云ふ社會を何とか主義の社會と云ひます。希望する人が澤山あります。やつて見る人が無いので一種のユウトピアとして祭り上げられて居るのであります。

小さな雛の夢

フランシスは或夜一つの夢をみました。
一小さな黒い牝鷄と其の周圍にピヨ〱と寄り集ふ
小さな雛の一群がありました。ところが雛鳥の數は

によりて決定を得やうとしたときに與へられたのは
二人の恩寵豐かなる魂ひのインスピレーションに身
を任かせることでありました。兄弟マッセヲはクラ

ー小さな黒い牝鷄と其の圓圍にヒヨ〳〵と寄り集ふ小さな雛の一群がありました。ところが雛鳥の數は餘りに多く、哀れな母鷄はそれを殘らず翼の下へ覆ふことが出來なかつた――と云ふ夢であります。「その牝鷄は私だ。私は小さくて黒いそして明かに私は私の子等を護ることが出來ないのだ」眼がさめた時フランシスはかう歎息を吐きました。餘り團體が大きくなり過ぎたのです。そしてあの初代の弟子達と彼との焔える樣な當時の生活が破られて行く姿を彼はまざ〳〵と見たのです。更に敎團が法王の支配の下に置かれてからは彼の雲雀の生活すらが裏切られて行きました。それでサバチエはフランシスの晩年は悲劇であると申したのであります。

　フランシスは此の世を遁れて孤獨の生活をした方がいゝと思ひ始めて來ました。唯この考へを妨げたものは、彼の唯一つの燈なる主クリストの榮光を棄

二人の恩寵豊かなる魂ひのインスピレーションにを任かせることでありました。兄弟マッセヲはクラの許と及スパレオ山のフラチ・シルベストロの許へ遣はされたのでありました。彼が歸つて來るとランシスはマッセオの足を洗ひ森の中へ伴つて跪報告を聞きました。マッセオは言ひました「フラシルベストロにも聖クララにも榮光のクリストはし給ひました。彼等は申しました。これは主の御で御座います。汝は世に行つて敎をお說き下さい。何故ならば神は汝をたゞ汝自らの故に選び給ふたのでは御座いません。されど他の人々を救はん爲めで御座います」。そこで聖フランシスは聖靈の火に跳起ちマッセオとアンヂョロの手を取て步き始めまし

　ベヴニアの方の途へやつて來ますと橄欖の木に無數の小鳥が囀つてゐました。フランシスは其處で地上に集つた小鳥達の中へ入つて說敎をし始めまし

小鳥達は聖者の僧衣の裾に觸れても騷ぐものもなく、首を傾げて聽入りました。「わが姉妹なる小鳥達よ。汝等は神に多くの惠みを負へり…………御惠みを忘れざれ……」とフランシスの說敎が終ると小鳥等は一つの十字架を書いて讃歌を囀りつゝ舞ひ去つたのでありました。これがフランシスの小鳥への說敎として名高い御話であります。

雪人形

孤獨を願ふ頃、サルテアノの山に木の枝を編んで造つた小舍の中に僅かの兄弟等と住んでゐた聖フランシスは、寂寥の裡に怖しい樣々の誘惑を感じたことでありました。その中でも彼を絕望させたものは妻帶を思はせる血のうねりでありました。

彼は帶として結んでゐた繩を以て自分の裸かの背中をびしびしと打擲しました。けれども「兄弟なる驢馬「(これは自分の肉體的の我に對して彼が附けた名前)は仲々言ふことをきゝませんでした。温い家庭とクララの柔和なる幻影が生き生きと眼の前に現はれる。フランシスは半裸體のまゝで戸外へ飛び出しました。冬の半ばでありました。彼は雪を塊めて七つの雪人形を造り一列に並べて、さて自身に對つて言ふのでありました。

「御覽フランシス！こゝに居る大きいのがお前の妻だ。その後ろのが二人の息子と二人の娘だ。そして僕べと婢とが凡ての荷物を携へて居る。彼らは皆寒さに凍えて死ぬところだ。――行つて何か着せてやれ。それが出來なければ、それならお前は神の外誰にも仕へる必要のないことを歡びなさい。」

女性とフランシス

聖フランシスの傳記者達はです。強ひてフランシスの傍らから佳人の存在を蔽くしてゐるのが明かに解るのであります。これは弟子等が敎團の典型を傳へる上に於て、弟子らしい心情より筆をとつたので止むを得ないのであります。兄弟の一人チェラノのトマソの筆になる最初の傳記に於てもフランシスと女性との關係及 殊に聖クラヲとの交りに就いては

全然歡戲せられたと言つてもいゝのであります。

これらのものによつて描寫されたフランシスは峻嚴な禁慾者であり、女性は一種の惡魔の化身の如く

てしなかつたと言ふ樣なことを記してゐます。

何は兎もあれ突飛な自由な單純なフランシスが異性に對する一面として亂れない崇高な心を以て

嚴な禁慾者であり、女性は一種の惡魔の化身の如く取扱はれ、更に驚く可きことには彼が肉眼で唯二人の女性しか見なかつたとされてあります。トマスもフランシスが情慾に負けることを恐れて瞼を垂れて居たと言つて居ます。明かに誇張であります。トマスが別のところで不用意に記るして居るところを見れば其の事實に反してゐることがすぐ判ります。

でもジョルゲンセンに引用されて居るところにも彼が弟子等に心をゆるして女性に近づくことを警しめたと云ふやうなこと、異性の人と話してゐる時に彼は常に地を見て居るか或は高い空を見て居たなどゝ云ふこと、そして話が餘り長くなると思ふと唐突に其を止めて了ふなどゝ言ふこと、又ベヴニアの信心深い娘に教訓を談つて居る時でも彼は娘を一目も見なかつた、彼は敬虔な女性は皆クリストの花嫁だと思つたので卑しき僕として其に目を向けるのを敢

異性に對する一面として亂れない崇高な心を以て居たことは誰しも感づる貴い印象であります。

併し悲劇的な晩年のフランシスが地上で最も天國的な安憩の場所と感じた所又彼自身が僞らざる自身の姿をさも自由さうに現はしたのは、其は聖クララを中心とする聖ダミアノ尼院であつたのであります其處に又いろ／＼の美しい物語りがあります。

前回に今月を以てクララを昇天させる樣に申上げましたのに拘らず、遂いろ／＼のことに話が外れまして大分長くなつて了ひました。フランシスとクララの昇天は延ばさせて下さい。今晩は電氣が消えましたので蠟燭で書いてます。これは馬鹿に大きな蠟燭です。田舍の母が停電の時に點ける樣に呉れたのです。何か中世を思はせる樣な光りです。

私は中世が好きです。あの中世に輝いたアッシジの聖き蠟燭が好きです。

九・七・九

神の驚くべき攝理

多胡生

あゝ神の智と識の富は深かな其審判は測り難く其跡は索ねがたし。
羅馬書十一章三十三節

たれかヱホバの力ある事蹟をかたり、その讃べきことを悉くいひあらはし得んや。詩篇百六篇二節

時は明治十六年、前橋に非常な大火事があつた。多くの人が驚いて起き出した時は住吉屋といふ大旅宿が、炎々として燃え上る最中であつた。故に火元は多分住吉屋であらうと思はれ、何人が言ふともなく今日迄も之を「住吉屋火事」と呼ぶやうになつたのである。其夜は折悪しく赤城嵐が暴々しく吹き荒んだ爲に、紅の焔の舌は、見る／＼四隣の人家を甜めて、人々のアレヨ／＼と逃惑ふ間に、忽ち一千餘戸を燒き盡す程の大火となつた。

そこで其當時五人の者は連署の上、偕に住吉屋こそ火元に相違ないといふ告訴を起した。爲に住吉屋では主人宮内文作氏を始めとして、多くの雇人は迭る／＼裁判所に召び出されて、其取調を受くることゝなつた。

然るに當時住吉屋の雇女の一人が其夜の火は住吉屋と隣家の紺屋との路次の邊から燃え上るのを見たと言募り、如何程法官から嚇かされても、頑として之を言張たので、漸く證據不充分といふ事になつて住吉屋は火元を宣告される事だけは免かれたが、何分にも世間の評判が五月蠅ひのと、殊に五人までも連署して告訴した手前もあるので、主人文作氏の胸中は甚だ穩かならぬものがあつた。遂には彼が上州

なる刀を手に入れ、機會さへありしならばと窺つて居る所へ、奇しくも其遠緣に當る笛木角太郎なる人から、一卷の新約聖書を贈つて來た。そして其文句が面白い。

「火事見舞に何か差上げ度いと思ふが、悲しい事には貧乏傳道師の身、他に何も贈れぬから、此一卷の聖書を貴下に進呈する。よく〳〵讀んで戴き度い。」といふのであつた。文作氏は其聖書を手にしたのが緣となつて、基督の福音に接し、特に「其敵を愛せよ」といふ聖訓や、十字架上にて敵の爲めに斬られしエスの祈禱に鋭く感動して、其時迄人殺しをしやうとせし邪慳な心を改め終に基督を信じて、其御救にあづかる事が出來たのである。更に文作氏は基督の窮なき慈愛に感激して、倚邊なき可憐な世の弱者孤兒病者達を助くる爲に其一生を獻げ、終に千難萬難と戰ひ、上毛孤兒院を起して、其生涯の間に數百

然るに其火事が鎮まつて後十三四年も經てからの出來事であるが、或日のこと前橋の町外れにある一軒の安宿から文作氏の許へ使者が來た。そして云ふには、「只今死にかゝつて居る一老婆があつて、其死る前に是非〳〵一度貴殿に御面會を願度いた申て居ります。」といふのであつた。

そこで文作は急ぎ其安宿に行つて見ると、如何にも其所には乞食のやうな老婆が死にかゝつて居るから、其傍に寄つて、私に逢ひたいといふのは、如何なる譯かと尋ねると、婆さんは涙ながらに、

「私は今から十四年程前に、貴家の隣家なる紺屋に怨があつて、夜中に放火をしたものであります。然るに其夜は烈しき風が吹捲くりしために、見る見る非常の大火となり、特に貴殿の御宅が目立つて大きな建築でありし爲に、多くの人が見誤つて、貴家を火元だと云ひふらしたのは何とも御氣の毒千萬であ

ります。私は今日迄此事を、隱して誰にも話しませんでしたが、之を貴殿にお話してお詫びを申さずば死ぬにも死なれませぬから、態々御足勞を願ひました次第であります。ドーか私を御赦し下さい。」と雙手を合せて文作氏を拜みつゝ、其息を引取つたのである。

此話は事實である。誠に宮田氏は意外の災難に遭ふた爲に、計らずも一卷の聖書に接して、之を讀み其敎を信じた爲に、基督の御救を得たのみならず、其一生の間に、幾百の孤兒を救助し保育することが出來たのである。そして彼はテモテ前書六章六節より十節迄を愛誦したと云へば、其人格の如何に崇高なりしかを想像する事が能きる。

あゝ我等之を思へば、今更の如く神の不思議なる愛の攝理を讚嘆せずには居られない。同時に聖書の偉大なる感化力を驚異せざるを得ぬのである。

右の一文は許可を得て聖潔之友新聞より轉載せるものなり。　編者

神を敬ひて足ることを知るは大なる利なり。
われら何をも携へて世に來らず亦何をも携へて往くこと能はざるは明なり。
それ衣食あらば之をもてたれりとすべし。
富んことを欲する者は患難と罟また人を滅亡と沈淪に溺らす所の愚にして害ある様々の欲に陷るなり。
財を慕ふはもろ／＼の惡事の根なり、或人之を慕ひ迷て信仰の道を離れ多くの苦しみをもて自ら己を刺せり。
神の人よ、之を避けて義しき事と神を敬ふ事と信仰と愛と堪忍とを慕ふべし。

テモテ前書六章六節以下

在紐育同胞婦人の醵金に就て

米大陸に宣傳しかしかた
かのクリヴランドの大會に於る、豫算案提出の
某婦人が立つて紐育の日本婦人が、かく／＼の事

河井道子

紐育婦人方の日本女子青年會の爲の募金は、米人の間に非常な好い印象を與へました。一體米國は個人團體や、私立的の公共事業即ち政府の力によらぬ教育社會宗教的事業の盛な國柄で、かゝる事に參與するは市民、國民の義務、特權とさへ思惟してゐる人さへある所です。彼等の中には、日本人は政府の仕事ならば醵金もするが、個人的事業、特に宗教や女子の私的事業には興味を持つことが薄いし、更に日本女子は公共の働に參與するは稀などゝ思つて居る矢先、併も排日の聲の盛んな今日、紐育在留日本婦人の此美擧があつたので、其は其は日米親善と申しませうか、眞の好意の交換と申しませうか、到底政治家の演說などのなし得ざる好い感を

某婦人が立つて紐育の日本婦人が、かく〳〵の事を
したと報告され、一同を奬勵したなどは、慥に太平
洋沿岸よりの代表者には、何よりの排日に對する良
劑でした。

此募金の企には新井山鶴子、手塚ドラ子夫人等が大に盡力せられました。そして之は大阪市の女子青年會と、東京青年會の王子事業とに多分分配して貰へる事と思ひます。寄附者達は大層大阪の有職婦人女工などに同情をもたれ、寄宿舍建設費に此金の大部分をあてられ度希望です。

斯く海外にある同胞が日本の女子青年會に盡力さるゝことは、日本にある姉妹方に益々努力せよとの奬勵に外なりません。或はよく働いた御褒美かも知れません。何しろかゝる協力は感謝の外ありません

（右は前月號に報告いたしました、四萬八百弗の寄附金に就て、河井總幹事より送られた說明であります）

誌友の頁

投稿を歡迎する
締切每月十五日

感想

S・S

每夜祈りの時私の心が一番喜びと感謝で一杯になるのは、人を許し得た時だ。そして何もかも忘れて泣きぬくのである。すると私の心は平和になる。許すといふ事それ自身が既に最大の復讐である。

現代人は過去と絶縁して自分一人でもう一度聖書を繙く必要がある。何故なら自分で聖書を讀んだといふ人は極く僅だから。

イスカリオテのユダのみが基督を賣るのではない人間社會各時代を通じてイスカリオテのユダならざるユダがあつた。そして現に在る。悲しい事だが之はいくら打消さうとしても打消しがたい事實である。

クリスチャンであるといふ或傳統的な聖い氣分でフーワリと包んで置くべく人生は餘りに眞面目である。そんな薄つぺラな理由を以て十字架は禮拜されて居るのではない。人間の苦痛の聖堂にのみ、十字架はあるのだ。

「我に來れ」とのナザレのイエスの聲に應じたのは智者でも博士でもなかつた。それは宿命の痛さを痛感して居た獵師等であつた。彼等は強く惱む若き靈魂の所有者であつた。

道德で批判したなら何の價値もない、否如何に罰せられても過ぎる事はない程の罪人の爲に、そして救はるべき何物も持たない憐れな弱者の爲に、イエスは生存せられたのだ。

殘されし一途

水野清子

うしきりに起つて居つた。
實際、私一人の生活を考へて見ても、一番物足なさを感ぜしめられる事は、生活に力のない事、

水野清子

今日の基督教會に最も缺乏して居るものは、物質ではない。金はなか／＼よく集るやうになつた。智識が缺けて居るであらうか。之にも否といふことが出來る。今日基督教會に比較的多くの學者があつて、それ／＼專門の道に權威となつて居るものが少くない。然らば吾等の缺乏は何であるか。教會の不振の原因は何所に存するのであらう？

假に、之は力の缺乏、卽ち神より來る靈的能力に我等の靈魂が充されて居らぬ所にある。之が現代の教會の最大缺陷である事は否むことが出來ぬ。

或會合で斯様な感話をきいたのはつい近頃の事です。ほんとに一人一人の信者が、（牧師や教會の役員ばかりでなく）若い者も老人も男も女も、基督者であるすべてが、上よりの力に充されるといふ事は、何よりの急務であるやうな氣が、小い私の心の中に

實際 私一人の生活を考へて見ても 一番物足らなさを感ぜしめられる事は、生活に力のない事、信仰に生命のないことです。物質の缺乏や智識の不足は、たとへそれが人一倍の窮地にあつても、私はさほど行きつまるまいと思ひます。然し靈魂の力拔けは、私を終に生きながら死んだ生活に運び行く恐怖があります。

昔からあれ程繰り返され、證明された生命の宗教事實の宗教、經驗の宗教である基督の教が、私には――現在の私には――頭につめ込まれた形骸に過ぎない。一切のなやみは其所に原因して居るのです。眞に生きたい、人らしく、神の子らしく、キリストの弟子らしく、斯ういふ願ひは實生活に時々刻々裏切られ續けます。跪いたひざを起す瞬間私はもう惡魔の手に捕へられて終うやうにさへ感じます。私の心の唯一の願望は、ポーロのやうに唯々キリストに捕へられたい、世にも、人にも、自己にも捕へられ

ずといふにあるのですが。

外側には如何見えても事實私の生活には生命がありません。歡喜が溢れても居ません。クララのやうな「精神的彈力」は露程もない事を感じて情けなくなります。

意氣地のないシミツタレた顔を人に見せるのがいやさに、とつてつけた元氣を示した事もありましたはしやいでも見ました。けれど自分の慘さを正直に見つめる時、私はもう强がりをいふ勇氣も、虚勢を張る力もなくなつて終ひます。

あゝ、空元氣はもうやめにしませう。之もやはり虚榮です。私は全く伐つて捨てらるべき果實を結ばぬ枝、いえ、それ所ではない、幹をはなれた枯枝同然です。キリストといふ幹からはなれて、どうして天父の養を受けることが出來ませう?、生活に生命のない原因は自ら明です。

幹に歸る事、之が唯一つの道ですけれど、それを知りながら、又信じながら、それさへなす力がありません。手を伸して生命の水を汲む力、心の扉を開く力、それがないのです。斯く自分の姿を見つめて居るとほんとに私の靈魂は、ニッチもサッチも行かない破産者の狀態にある事に氣づきます。

「キリストに於る信仰は余を罪より救ふ者なり。然れども信仰も亦神の賜物なり（エペソ書二章八節）余は信じて救はるゝのみならず、亦信ぜしめられて救はるゝ者たり。此に於てか余は全く自身を救ふの力なきものなるを悟れり。然らば余は何をなさんか。余は余の信仰をも神より求むるのみ。基督信徒は絶間なく祈るべきなり。然り彼の生命は祈禱なり。彼尙不完全なれば祈るべきなり。彼尙信仰足らざれば祈るべきなり。彼能く祈り能はざれば祈るべきなり。惠まるゝも祈るべし。呪はるゝも祈るべし。天の高きに上げらるゝも陰府の低きに下げらるゝも我は祈らむ。力なき我、わが能ふことは祈ることのみ。

ふと私は内村先生の著書で讀んだ此言葉を思ひ出したのです。

唯一つ、ほんとに唯一つだけ殘された途がまだあつた。之は神樣の御慈悲で最後迄殘される靈界への一筋途そして之は又、神樣が私のやうなものをあま

だし／＼御見捨てにならぬ何より貴い證據、あゝ私には尙此一つの力が殘されて居た。祈禱といふ一事。祈り思ふ時、破産者の私は新しく開けた途を見出

私の前に拓けた一筋途です。

◆御寄稿を願ひます

は僅に一つの只だ殘されて居た　祈禱といふ一事。

斯く思ふ時、破産者の私は新しく開けた途を見出でた喜びに躍り上るのです。そしてヂット此一事に心をひそめて居る間に、之さへあればといふ勇氣さへ起ります。

「主よ聖國に來らん時我をおぼへ給へ」十字架上に死に瀕した盗賊は、斯く祈ることの他何も爲し得ませんでした。そして救は確證せられたのです。人が祈り得る間は生命への途が永久に開けて居ます。

若し現代の基督教會の缺陷が、物質に於てでもなく智識に於てでもなく、能力の不足にあるとしたら之より救はるゝ一途は、祈禱の一事でありませう。若し信者の靈魂が破産、瀕死の狀態にあるとすれば之も亦祈りに依つて救はるゝ外に途のない事を思ひます。讀書や思索や冥想に依つて得られない生命力はひたすらに求むる者に與へられると信じます。

祈禱！　聖靈を求むる祈禱！　之が行きつまつた

◆御寄稿を願ひます

夏期修養會に御出席の方々は感想、經驗、與へられし教訓、受けし惠等を御投稿下さい。

「與へる事によつて得る祝福」は唯物質上のこと許りではありません。美しい思想、感情の所有者、惠の經驗に富んだ精神的の富者、之等の方々はどうか惜しみなく各自の所有を配たれん事を願ます。與へる事により、其の思想なり經驗なりは一層適確なものとなつて已に歸つて參ります。斯くして此小雜誌が、二千餘の讀者の所有する美しきもの尊きものゝ交換の機關となり、若き人々が互に勵まし教へ合ふ手段となり得ますならば、之に優る幸福はありません。本誌發行の眼目の一も實に此點にあるのであります。

原稿は東京牛込區市谷田町女子青年會內

雜誌編輯部宛に願ます　（締切毎月十五日）

桑港より紐育まで（第二信）

河井道子

左樣なら太平洋上の樂園！

四月二日大勢の友人達に見送られ、頸には花輪を重苦しげに澤山かけて貰つて美しい／＼太平洋の樂園を出ました。岡本品子夫人が御主人と御子息と御一緒に御渡米の由で、私共の乘船した天洋丸に居られ、海上の六日間を朝夕親しく御目にかゝる事が出來て愉快でした。

船中は割合早く日が經つものです。ぢきに七日になりました。此日は終日上陸の仕度でごたつき八日は早朝に起き、六時半に食堂に集められて一通り檢査官の視線だけを頂戴する事でしたが、なか／＼待たされ、税關の荷物檢べで二時間もかゝりやうやくの事で桑港に上陸いたしました。

直に安孫子夫人の御宅に導かれ、早速御夫人の御心入の貴食を戴き、身仕度もそこ／＼にして用事に出かけ、其後青年會の催にかゝる歡迎會に出席いたしました。

桑港の青年會は、ミスエリスの指導や諸姉の盡力でなか／＼隆盛になり、近々新に一軒を購買して移轉せんとの意氣込なりとか。特に永井姉を得た此會は幸福です。

來會者中には舊友も多く、態々遠方より尋ねられし姉妹もあり、終日でも逢ひ足らぬ位なるに早や東ヶ崎夫人宅にての夕食の時なりとてせき立てられ同家に參りました。

安孫子姉方に歸りしは十時過ぎ、さてお互に日本の話等なす中に、夜中になりました。

翌朝は九時の汽車にやうやく間にあひ、乘込んで

に後れるた[illegible]との事　あきれて物を云ふ元氣もなく御送り下すつたミスエリスと御別れしました。

汽車は十一時頃動き出し、春の最中の長閑さを車窓から眺めて、氣を休めたのも僅の間、三時頃には雪景色の中を走り出し、十二日午後シカゴにつく迄殆ど雪中の進行を續けました。船も物憂いが汽車の旅行もなか／＼難儀で、食慾はないし氣は落着かずシカゴに着いてやれ／＼と思ひました。

シカゴでは渡邊姉の友人の母君が御出迎下され、萬事都合よく、僅の時間に世界第一と云はれるマルシャーフィルドの商店に行き、田舍者を盛に發揮して樂しみ、夕方市青年會に參りました。恰度商店の女子等の集會が一室にあるからとて、其室にて一緒に食事をよばれ、其後に一言挨拶をして、夜九時にクリブランド行の汽車に乘り込んだのです。

渡邊さんの大傑作

汽車は大變な乘客で、寢臺は上下共大概二人宛の同じ青年會の大會に行く人達が工夫して場所をとつてくれました。

やうやう落着いた夜中頃、ジージーと呼鈴がしきりになつて居るのに氣づきました。多分車中に病人でも出來て車掌を呼んで居るのだらうと、初めは夢心地できいて居ましたが、餘り音が止まないので、不思議に思ひ起きて見ると、渡邊さんが寒さの爲上着を着ながら自分の背でベルのボタンを押して居た事を發見しました。

「一寸早くのきなさいよ、貴女の背がボタンを押してるのぢやありませんか」と小聲ながら一生懸命に私が云ふと、

「何?」と寝ぼけた返事。

「あなたがあのベルを鳴して居るのですよ、早く、それ」とて推しのけ、可笑しさは可笑しいし、車掌が來はせぬかと心配でもあり、ヒヤ／＼して居ると案の狀、幕の外で、

「何用？」と車掌の心配さうな五月蠅さうな聲が聞えました。

「間違つてベルに觸つたものですから、濟みませんでした」と小言で詫びた後、二人とも堪へ切れなくなつて吹き出して終ひました。

之は今度の旅行中の特記すべき事件です。

四月十三日早朝クリーブランドに到着しました。地上にはまだ雪があり、私共の衣服では寒過ぎてどうする事も出來ません。トランクは三日もおくれて着くといふ仕末、可なり閉口いたしました。

米國女子青年會總會

愈々十三日の午後から、市の一大講堂で第六回總會が開かれました。私共は旅館に分宿しました。渡邊さんは六階に一人、私は十二階に先年日本に參られたエディー夫人と同室でした。

此旅館は一千個の客室があり、各室に風呂と電話とがあるのです。然し斯る旅館は米國には珍しくなく、クリブランド市丈にでもまだあるとの事をきき

今秋日本で開かれる日曜學校大會に、二千人の客を
入れる旅館がないとて騒いで居るのを思ひ起し氣の
毒に思ひました。何しろ米國は大々的です。

此女子青年會大會のみに、二千七百人の人が當市
に集つたのです。此他にもまだ大會があつたさうで
すが宿所の心配等は少しもないやうでした。

扨て大會の會場はメイソンといふ建物で、舞臺か
ら全部を見ると、正面と側面とは天井迄人が段々に
小く重なつてゐる樣に見えます。來會者は、市の臨
時來會者をも合せて三千人は確でせう。其全部は女
子で僅々數人の男子が居た位でした。十三日の開會
式後新議長、新役員の選擧があり萬事議會式で、一
糸亂れず議事の進行する樣は敬服の外ありませんで
した。

第一日は人の山のみが目につき、新舊知人が多く
頭がピン／＼、早く歸り度く思ひました。久々にミ
スレーガンに遭遇して、既往を語り、將來を計り、
夕食を共にしたまではよいが、蜀黍にあてられ、夜

中は大苦しみをしました。

翌朝渡邊氏の室に行くと青ざめた顔して食當りを訴へるので、同病相憐みながら當日は缺席の止むな

しお思はれませんでした。

今も御詳に見えるのは、有名な音楽家、シェパ

訴へるので、同病相憐みながら當日は缺席の止むなきに至つたは情ない次第、殊に其日は學生部の憲法改正案の提出される大切な日であるので、實に殘念至極でした。

　幸私は半日位で恢復しましたが、渡邊氏は旅の疲れや、寒さあたりやらでなか〲恢復せず、二日もかゝつたのは氣の毒でした。何しろ毎朝九時前に旅館を出て、夜十一時頃に歸り、十二時でなくては床につく事が出來ぬわけ故、代表者は誰しも疲勞を感じたのは無理もありません。何の責任もない私共でさへ、重大な議事が次ぎから次ぎへと討議されるのですから、聽神經を勞する事は非常でした。

　午前の討論會で産業部即ち工業に從事する女子の部が、米國の教會同盟の採用した社會方針を、女子青年會の社會方針にせんとの案が提出されし時は、實に目醒しい勢で女工も教師も夫人も學生も皆滔々

しか思はれませんでした。

　今も尙鮮に見えるのは、有名な金満家、シェパード夫人が靜かに、謙遜な、然も確信ある聲で、自身の考へを述べられると、直に一女工が立つて、夫人に反對する意見を怖るゝ所なく然も傲慢の樣子も見えず、二三分間で明瞭に說きつくす態度の立派な事共公明正大な意見の交換に一同感服いたしました。或は又女學生が彼等の信仰の自由を主張する、其に贊する理由、反する理由を述べるものもあるといふ具合で、青年女子の進歩の爲と神の國建設との爲に努力せんとの熱誠は萬場に顯はれて居りました。

　最後二日間に亘る豫算案でも、米全土の女子青年會が三百萬弗の負擔金を引受ける樣の勇ましさ、始めて青年會の偉力を了解し得たやうにさへ思ひます

　閉會後直に三日間幹事會がありました。之の報告は他日にゆづります。とにかく五百名以上の幹事が出席したのですから、米國青年會の大きい事がお分

りになりませう。

四月廿三日の夜行で此市を出立し翌日午後ニユーヨーク州のオバーン神學校敎授モール氏の家に投じました。夫人はブリンマー大學の友人で立寄るやうにとの手紙が桑港に私共を待ちうけましたので、こゝに途中一寸より道をしました。其夜當神學校にある八人の日本留學生に會ひました。翌日は早く同地を辭し、シラキユス市にて下車し、渡邊さんの友人の夫君が同市大學の敎授である所から夫妻で非常に親切に諸所を案內して下さいました。其夜ニユーヨーク市の幹事學校に到着したのは九時過ぎでした。

アダムス、ダヲ兩先生は勿論、パタソンさんやレーガンさんに取圍まれ、其上以前から知り合ひの人々が多いのでまた目が廻りそうでした。其後しばらく渡邊さんは發熱し出し一週間病人となりました。

四月卅日に私はヒラデルヒヤに行き、翌日ブリンマーに行きましたが、丁度內田文子様が不在で殘念でした。何でも此日に同氏は名譽ある賞與を學校からうけられたとか新聞でみて嬉しく存じました。午後から英學塾の爲或會合を催して貰ひ、之に出席し其席からすぐ又ニユーヨークに歸りました。序に記しますが新渡戶夫人の母堂は其一週間前に死去されたとのことをヒラデルヒヤで聞きました。

ニユーヨークで起つた事の中最も大きい出來事の一つは、斯の四萬八百弗の寄附金です。(委しい事は別項を參照して下さい)大阪には全く意外の幸福が降りましたが、どうか十五萬圓の基金は是非とも大阪の靑年會でして戴き度いものです。如何ですか大阪の姉妹方よ。東京の方では五萬圓位是非王子の爲にこしらへて下さい。そうすると此寄附の幾分を加へて恥かしからぬ事業にとりかゝれると思ひます。修養會の土地は如何なりましたか、之も落成させる金額を內外で與へられん事を祈ります。

まだ澤山書き殘した事もありますが、最早夜十二時、船內は機械の動く音の外何も聞えません。皆様の御健康を祈りつゝ擱筆いたします。

東京靑年會（神田北神保町一四）

△學生部報告

一、六月廿六日夜商工部集會を開きました。先日
銀行會社商店お役所と各方面からの來會の通知、
九十。特に夕食を共にする計畫で、お料理は先日

△學生部報告

一、クラブ誕生。お茶の水專攻科の生徒で聖書及英語を學びに來る人々の中に七月三日ブリュートライアングル倶樂部が生れました。東京女子靑年會の初生子でございます。健全の成長を祈つて居ります。

一、七月五日午後四時から五時迄冨永德磨氏を聘して講演會を開きました「新生命の意義と力」といふ題で有益なお話をして戴きました。來會者は主として信者で八十餘名、大山孃のピアの獨奏もありました。

一、聖書敎師講習會。九月の中旬から聖書を一週間に一回位、好意的に敎へて下さる人々の爲に本講習會を開きます。收穫は多く働く人の少なき折柄、有志の方々の多く出席せられん事を祈つて止みません御希望の方はどし／＼御申込下さい。

△商工部報告

銀行會社商店從員と各方面からの來會の通知　約

九十。特に夕食を共にする計畫で、お料理は先日來講習をして居らるゝ鐵道の方々の御技量に一任致しました。定刻卅分前には食卓は九十人前の色美はしい野菜のサラド、凉しげなレモンスノー其他心づくしの品で飾られました。折惡しく五時近くより俄の夕立で御出席が約三分の二に減じました事は殘念でした。國際通信の方のお隣には日本電氣の方、の方の前には不動銀行の方、高島屋の隣が石油會社等と常には互に接する機會の稀な方々が何の隔もなく語り得ますのは斯うした會の特點と嬉しく感じます。八時半より女醫前田先生の「姿勢と體力」といふ有益なお話がありました。九時十五分過ぎ散會。

六月廿四日ミシン講習會終了の一寸した集りを致しました。僅かに十回の中に機械の使用法から始まつて終る時には婦人用股引まで參りました。皆樣の熱心さは五時半に始めて九時を打つても機械の響の止

まなかつたのでも解ります。ミシンと同時に始めた料理の講習は七月十三日で終りました。汗の自と出る咋今の暑、それにガスの熱が加はつて料理室はムツトしますが、中に皆様は暑は愚、一日の疲勞さへも忘れて生々した氣力で一つ一つを立派に仕上げて行かれる御様子を涙ぐましい程嬉しく拜見しました

七月五日六時半から五回簡易西洋料理講習會を開きました。會員は三越の方のみでした。樂しみにして御出席下さる皆様をお迎する毎に自分の働きに對する熱心さに鬪して敎へらるゝ事が多うございました

七月十七日敎育部の文學會に商工部よりとして「青い鳥」をいたしました。幸福の爲に求めた青い鳥、自己の幸福を他に配つた時の心の喜び、役々を持つてる一人一人がハッキリと其喜を握つてして居らるゝ事を最上の喜と眺めました。

—夏期休養所—

休養所の第一日は七月三日に始りぬ。同勢七人。稻村ケ崎邊よりは浮腰となりし一同、岸をかむ波のウネリを眺めてアレヨ〳〵と喜ぶに、手にせる大切の釜も皿も今は問題にあらず、たゞ波。たゞ浪。

やがて峯ケ原につく、ＹＷＣＡとある表札は去年と同じくさゝやか乍ら明らかに門柱にあり、戸を開けば長く閉ざゝれし匂、鼻をつく。まづ御挨拶にと岸邊に走れば波我足を洗ひ、我波の中に立つ。都よりの俗の思、忽ちに洗はれし如く身ブル〳〵と震へて頭よりホットす。鎌倉の山は悠やかに北に高まり、江の島は一呼の中に横はる。兩腕を開きて胸をはれば太平洋の大氣は目と胸に爽かなり。

夕食の折には電球なく、隣人(ロシア人)の親切に五十目大の蠟燭を燈し樂しく食す。九時近くして寢待の月は橙色して森戸の邊りより出づ、即ち光を消して緣に椅子を持ち出し語る、歌ふ、靜かなる夕を此時が思何にかは比べん。埃及を遁れしイスラエルの子等、紅海を渡りてシュルの荒野にたむろせし時の事共等想ひ耽りて浪音高く夜は靜なり。(三日夕記)

幾度目がさめたでせう、餘り明いのですもの、月の光で室の中が。誰かモゴ〳〵と話す聲がするのでノト目を開きましたら、何時の間にかすつかり夜が

頭の中には何もなく唯嬉しく嬉しい半日を過しました。(四日夜)

御希望の方はどし〳〵御申込下さい。費用は東

。。。。。。

の光で室の中が　話がキ〳〵と話す聲がするので

ノト目を開きましたら、何時の間にかすつかり夜があけてました。唯一人床の中に殘されたので恥かしい氣がしました。話す聲は裏口です。出て見ると皆様は物賣翁を相手に魚を買つて居られました。すでに二人の方は腰越に食糧を求めに出發。他の一人は楊子加へて後の山に出かけ、優しい撫子と美しい百合とを手折つて來れらました。九時頃に糧食が運び込まれた臺所は急に活氣づき、水くみ、米とぎ、芋の皮むき、七人が皆一勢に働き初めたので、三疊半の臺所は何の餘裕もありません。やがて朝飯は出來ました。一寸つまんで見るとコレはしたり、餘りに氣骨があり過ぎます。水を加へて炊きかへすと今度はおかユの出來損ない。失敗は成功の基とうそぶくも笑の種。

食事後海岸に出ました。此附近は西洋の方々ばかりです。東京の事等は更に思ひ出しも致しません。

した。（四日雲）

御希望の方はどし〳〵御申込下さい。費用は東京から峯ケ原迄往復二圓、食費六十錢、舍費十錢（一日）

教育部

女子青年會女學會　七月十七日（土）

恭される様な堪へきれぬ日であつたにも拘らず、一學期の最終日といふのでか二百人に餘る會衆を得たことは豫想外であつた。一年生の可愛らしい英語のオプニングアドレスに始り、ピアノに手が達しかねる程の幼な兒のミミレドドやストーリーの暗誦の無邪氣さ、一同名狀し難い貴い或物に捕はれて眺め入りきゝ入つた。幕新まると商工部の有志者の貴い努力の結晶、青い鳥が演ぜられた。第一部も終らんとする最後に異彩を放つたのは有名なギリシャ神話の勇士ユリシェスが魔女サーシスの宮殿を訪れる場面、魔女サーシスの如何に巧みな魔力もユリシーズのクイックシルバーから與へられた純白の花の香に

は勝ちがたく、終に此人こそ魔力の効を表し得ぬ人と知るに及び、サーシスを初め、天使のそれにまがう薄物をつけたメイドン等の「命のみは助けてよ〳〵〳〵」と伏して願ふあたりは上出來であつた。

次の十五分間の休憩には、レインボークラブの方々のお骨折によつて用意されたアイスティやお菓子は可成お客様のお腹の中に入つたやうだつた。斯ういつた機會をかゝさず上手に捕へなさる同クラブの方々のタクトには感心させられて終つた。

第二部はアンクルトムスキャビンのミスオフェリヤとトプシイの場面に移る。服裝といひチェスチュアといひ發音といひ、今日の呼び物だけあつてなだらかなものであつた。殊に黒ン坊のトプシイは適所に適材の感を起さしめた。續いてなされた二三の英詩、英唱等は眞實に詩的に歌はれたといつても過言ではないと思ふ。

苦しい暑さも忘れるやうなピアノのメロディーを最終に、此暑中をわざ〳〵御出かけ下さる方々に遠路御出の價値あるものにせんと努めた餘興も終りを告げ、五時半に散會はしたものゝ、また合ふ日までの二ヶ月のお別れが名殘り惜しまれると見えて、二三五五の群が此處彼處につくられて居た。

東京青年會々員諸姉へ

拜啓御暑き時節と相成申候。如何御過し遊ばされ候や御伺ひ申上候。いつも變らぬ御厚志の程ありがたく感謝致し居候。扨之迄會員皆様の御手の中に開かれ候雜誌「女子青年界」の件及其他の件に就き是非とも御耳を煩はし度此文を呈する次第に候。

從來東京基督教女子青年會々員諸氏の特典として會費の中より毎月雜誌一部を贈呈致し居りし事に有之候、抑々以前は誌代として本部の特別割引にて一部金七錢(定價十錢)の割に支拂ひ候ものが、其後紙價印刷代暴騰の爲現今にては一部金拾貳錢(定價拾五錢)と相成候、從て經濟上影響を來し候ものから此來月以降從來の會費壹圓貳拾錢を壹圓五拾錢に參

圓を五圓に改正致し候事は已に御承知の事と存じ候

さて右雜誌の爲此後とも屢々會費の變更を見候事

また會員の名稱變更の件とも御報申上度候。之

本會々員を特別、維持、普通の三種に致し居候處、

さて右雜誌の爲此後とも屢々會費の變更を見候事は、本會の意ならず且經濟の上をも省みざるを得ず玆に六月廿四日の委員會にて會費（本年度分をも含む）御拂込みの月より向ふ六ヶ月間は雜誌を差上ぐる事とし（會費拂込期の其月より已に六ヶ月分の雜誌を受取られし方は此限りにあらず）其後は全然廢止と決議致し候。何卒右の事情御諒察の上御承知被下度願上候。

尙雜誌贈呈廢止の主なる理由を左に申述べく候

一、從來會員と雜誌購讀者との間の區別判然致し居らざりし爲會員相互の間に親しみの念の缺けたりし事以後は更に會員としての一致團結を設り度事

一、諸方面に事業擴張し又發展するに伴ひ、經濟上の壓迫多大なる事。昨年度會員の雜誌代として支拂ひし金額月に五拾圓餘なりしを現今は百圓餘を免れず、實に倍額の有樣なる事。（會員數の增加にも因る）（昨年度月支出平均八百圓餘、本年度は千二百圓餘なり）

本會々員を特別、維持、普通の三種に致し居候處、此度それらの名稱を全部撤廢いたし、皆一樣なる會員と呼ぶ事とし、各自會への御出資額を從前の通り左の三種とし、其金額の用途を次の通りに相定め申候

會費及維持費	金拾圓以上……	（金一圓會費 金九圓維持費）
	金五圓以上……	（金一圓會費 金四圓維持費）
	金壹圓五拾錢以上…	（金一圓會費 金五十錢維持費）

是等の金額以外にてもよろしく候

來る十月あたりより會の其時々の模樣、報告等を添えたる小冊子を發行いたす事と相成申候間、其事をも併せて御憶へ置き下され度候。

又是迄雜誌を御愛讀下されし方々は今後も何卒御續け下され度願上候。購讀料は一ヶ年分金壹圓五拾錢（前金郵稅共）に有之候、御希望の方々は直接牛込區田町三丁目十二番地女子青年會本部に御申込相成り度候。先は右御通知旁々御願申上候。

東京基督教女子青年會委員

横濱女子青年會　（本町通り）

○ビジネスガールスクラブ　六月十二日午後七時より當市有職婦人を主として、商店會社に勤務せらるゝ女子の集會を開く。集れるもの五十四名。來らんとする秋の好季に創立さるべきビジネスガールスクラブの準備をなす。

○有職婦人親睦會。二十八日午後七時半より同會を開く。プログラム準備等凡て選ばれし三人の委員の手によりて運ばれ、職員の餘興もあり、愉快なる一夜を送り、樂しき秋の再會を約し、長き夏の別れを惜しみて散會せるは十時近くなりき。

○教育部終業式及文學會　七月十六日午後七時よりメンデルソン夫人司會のもとに開會。第一部を禮拜とし第二部にうつり左の順序に從ひ文學會を執行す

第一部　一、讚美歌　一、聖書朗讀　一、祈禱

一、讚美歌

第二部　一、ブレイズヒム、ブレイズビム　聖書の組　一ノ組

二、英語暗誦　一ノ組

三、ピアノ獨奏　小塚しげ

四、英語對話（ゼアボットチブキャンタベリー）高女卒業生の組

五、英詩暗誦　二ノ組

六、ピアノ　服部きよ子

七、枕の草紙　山口かつ

八、英語暗誦　中森りん

九、英語對話（ジャヂメントヲブキャンデイ）夜學生

十、讚美歌　（三五）　一同

茶菓

會するもの八十名以上。「こんな豊かな、然も立派な文學會をもつと廣く白人などをも招いて見せてあげ度い、私は斯うした文學會を見て、誇を感ずる」

これは司會者メンデルソン夫人の賞讃の辭なりき。

新學期は九月十五日より開始。

（横澤氏報）

編輯後記

毎號必御執筆下さいます森田先

消息

一河井總幹事　別項通信の如くクリーブラン

摘

△本誌代金に關して前金にて御拂込被下度　前金切れの節は有之候節に直に御拂込被下度候

△御送金に振替にて御拂込まるゝ方便

毎號必御執筆下さいます森田先生の御文章を、本號に拜見出來ません事は大變寂しい氣が致しますす御同樣御恢復の速ならん事を祈り度存じます。佐波先生のピリピ書研究は一回だけ休載の都合に至りました。九月號には引續き第四回の講解を御寄せ下さる事になつて居ります。小出先生のクララ評傳は幸にも彼女の昇天が今暫時引とめられました爲來月も亦皆樣の前に敬虔な姿を寫し出さるゝことゝなりました。彼女の昇天の塀の至る迄にどうか私共の心底深く彼女の姿を烙きつけ度きものではございませんか。信仰生活の靜と動とは決して撞着矛盾するものでない事を學び度く存じます。

一九二〇・七・二〇・H・A

□河井總幹事　別項通信の如くクリーブランド大會より順次豫定通りに進行、九月には再びニューヨークに向はるゝ由。

□渡邊百合子氏　九月迄はスプリングレークなるミセスモーゼス別莊に滯在。

□加藤高子氏　夏期を新潟村上なる御兩親の許に過さるゝ由。

□横澤つぎ子氏　休暇中郷里仙臺に歸省。

□鈴木とみえ氏　鎌倉峰ヶ原休養所監督の爲八月上旬を同所に過さる。

□大呑久子氏　（神戶青年會幹事）修養會に出席せらる。夏休は東京の御家に過さるゝ由。

□林秋子氏　（京都青年會幹事）修養會に御出席ありたり。

□高倉德太郎氏　旅行先にて病を得られ郷里綾部にて御靜養中。

□山田琴子氏　御病氣未だ思はしからず絕對安靜を要する御狀態の由。

□星野愛子氏　八月中御殿場に赴かるゝ由。前號に同氏不健康の爲修養會委員長を辭さるとありしは御友人御病氣の爲の誤なり訂正す

□ミスカット、ミスペーヂ其他は輕井澤に赴かれたり。

摘要

下度、前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共	内地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正九年七月廿八日印刷納本
大正九年八月一日發行

發行所　牛込區市ヶ谷田町三ノ十二
日本基督敎女子青年會
電話番町四五六三番
振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　牛込區市ヶ谷田町三ノ十二　河井道子

印刷人　芝區愛宕山和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　右同所　三成舍

貴婦人紳士御愛用美髪料

DAISEIYA HOTEL

Honcho 6 chome, Yokohama Japan,

Phone. 953,2813. Honkyoku

御歸朝並に御渡航上に就ては萬事丁寧親切に御取扱申上候、尚御歸朝の際は無線電信にて御通知被下候はゞ御出迎可仕候

歐米各國汽船乘客貨物取扱所

廣島縣海外協會指定旅館
熊本縣海外協會指定旅館

大勢屋旅館

横濱市本町六丁目(櫻木驛前)

電話本局 長 二九五三 二八一三

弊館は最新式四層建築にして各室電話の設備を有し歐米視察御旅客並に御携帶品、貨物等の取扱には最も高評を博し居り候

胃腸新藥 タカヂアスターゼ

本邦人に最多數を占むる澱粉質不消化に因する胃腸障害に必要不可缺の藥品こして、多數の醫學者、臨牀家により確認賞用されつゝある本劑は、高峰藥學、工學博士の發見にかゝる强力なる澱粉消化素なり。尙本劑は近時の研究により、獨り澱粉質のみならず、人の膵液中に存在する殆ごすべての消化酵素（蛋白質、脂肪其他の消化酵素）を含有し、而も其消化力は膵液に百倍することゝ闡明せらる。

本劑に關する內外醫家の實驗報告書あり、無代贈呈す

類似品多種あり、御購入の際は必ずタカヂアスターゼこ乞御指定。（各地藥舖にあり）

種類、粉末七瓦、十四瓦、廿八瓦、半磅、壹磅、錠劑（〇・一三）參拾錠、百錠、貳百錠、强壯酒八オンス入等あり。

緩和下劑 カスカラ糖衣錠

本品は頗る緩和に腸の蠕動を催進し、小骨盤腔の充血を起す事なく、爽快なる便通を來すを特色こせらる。常習便秘治療劑こして最も聲價ある新藥なり。

不良類似品多種あり御購求の際は必ず三共カスカラ糖衣錠こ指定せられたし。

百錠入、五百錠入、千錠入の三種あり。

三共株式會社

本社　東京日本橋室町

出張所　大阪東區平野橋

本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内 一五三〇、一五三三番）
營業所 横濱市山下町五番（電話本局 四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三番）

女子青年界第拾七巻第八號（毎月一回一日發行）
大正九年七月廿六日印刷納本 大正九年八月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可